



## 2023年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社フジオフードグループ本社  
コード番号 2752 URL <https://fujioogroup.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 幾野 光宏

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第3四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	22,288	15.9	312		235		21	
2022年12月期第3四半期	19,225	5.8	1,696		544		998	

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 38百万円 ( %) 2022年12月期第3四半期 967百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	0.47	
2022年12月期第3四半期	22.66	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第3四半期	21,132	2,131	10.0	46.68
2022年12月期	21,529	580	2.6	12.89

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 2,116百万円 2022年12月期 569百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00		0.00	0.00
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)					

(注) 2023年12月期の配当につきましては、未定とさせていただきます。

### 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,736	15.9	557		501		59		1.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年12月期3Q	45,337,860 株	2022年12月期	44,837,860 株
-------------	--------------	-----------	--------------

期末自己株式数

2023年12月期3Q	74 株	2022年12月期	703,474 株
-------------	------	-----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期3Q	44,903,897 株	2022年12月期3Q	44,053,375 株
-------------	--------------	-------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(四半期連結損益計算書関係) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行やインバウンド需要の回復によって正常化が進みましたが、為替市場の円安進行やロシア・ウクライナ情勢の長期化、原材料や資源価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、新型コロナウイルスの影響が収まってきたものの、生活様式の変化や原材料価格・光熱費の高騰、慢性的な人手不足等によって、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリーで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」を中心とした全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高222億88百万円（前年同期比15.9%増）、営業利益3億12百万円（前年同期は営業損失16億96百万円）、経常利益2億35百万円（前年同期は経常損失5億44百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失21百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失9億98百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「麺乃庄 つるまる」、「さち福や」、「天麩羅 えびのや」等の事業展開を行っております。

当事業では、時間帯別売上分析による適切なシフトコントロールによってコスト削減を行うとともに、販売実績のABC分析から顧客ニーズを図りターゲットを狙った商品開発を行いました。また、季節フェアキャンペーンの推進、SNSやメディアを活用したブランド認知度の向上、既存店舗の美装改装等による集客力向上施策を実施し、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は211億61百万円（前年同期比16.5%増）、セグメント利益は15億19百万円（前年同期はセグメント損失3億35百万円）となりました。

#### <FC事業>

FC事業におきましては、加盟企業・社員独立による営業委託者とのコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指しております。

主な活動といたしましては、フランチャイズ加盟開発の強化、現環境に適した業態への変更の提案等を行ってまいりました。

以上の結果、FC事業全体の売上高は11億26百万円（前年同期比5.7%増）、セグメント利益は7億26百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

当社グループの2023年9月末時点の店舗数は744店舗（直営店（国内）432店舗、直営店（海外）5店舗、委託店（国内）63店舗、FC店（国内）226店舗、FC店（海外）18店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。なお、各ブランドの売上高構成比の増減を鑑み、表示するブランドを変更しております。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	委託店 (国内)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	87	2	23	174	7	293
神楽食堂 串家物語	71	-	2	26	4	103
麺乃庄 つるまる	21	-	14	7	4	46
さち福や	38	-	1	7	2	48
天麩羅 えびのや	33	3	2	3	1	42
その他	182	-	21	9	-	212
合計	432	5	63	226	18	744

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は3億97百万円減少し、211億32百万円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から1億89百万円増加し、固定資産が5億87百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、現金及び預金の増加5億51百万円、預け金の減少1億68百万円によるものであります。固定資産が減少した主な理由は、有形固定資産の減少4億3百万円、敷金及び保証金の減少2億3百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して19億48百万円減少し、190億円となりました。これは主に買掛金の減少83百万円、借入金の返済による減少17億15百万円、長期未払金の減少1億円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上、第三者割当による新株式発行及び自己株式の処分等により、前連結会計年度末と比較して15億50百万円増加し、21億31百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期通期の業績予想につきましては、2023年8月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,766	6,318
売掛金	539	518
棚卸資産	189	136
前払費用	271	269
未収入金	99	177
預け金	1,209	1,040
その他	468	285
貸倒引当金	△0	△14
流動資産合計	8,542	8,732
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,780	16,261
減価償却累計額	△8,772	△8,750
減損損失累計額	△2,936	△2,772
建物及び構築物 (純額)	5,071	4,738
工具、器具及び備品	5,593	5,395
減価償却累計額	△4,878	△4,764
減損損失累計額	△465	△445
工具、器具及び備品 (純額)	249	185
土地	859	859
建設仮勘定	15	4
その他	376	387
減価償却累計額	△366	△371
その他 (純額)	10	15
有形固定資産合計	6,206	5,803
無形固定資産		
のれん	1,464	1,391
その他	49	38
無形固定資産合計	1,514	1,430
投資その他の資産		
投資有価証券	410	468
関係会社株式	148	162
繰延税金資産	13	13
敷金及び保証金	3,758	3,554
その他	1,143	1,173
貸倒引当金	△207	△205
投資その他の資産合計	5,265	5,165
固定資産合計	12,986	12,399
資産合計	21,529	21,132

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,316	1,232
短期借入金	3,655	3,500
1年内返済予定の長期借入金	2,030	1,627
未払金	1,299	1,239
未払費用	591	574
未払法人税等	63	207
未払消費税等	340	341
株主優待引当金	249	250
資産除去債務	14	26
その他	341	386
流動負債合計	9,901	9,384
固定負債		
長期借入金	8,687	7,530
リース債務	10	12
資産除去債務	1,199	1,143
預り保証金	247	245
長期未払金	100	-
繰延税金負債	145	157
持分法適用に伴う負債	558	500
債務保証損失引当金	91	16
その他	6	9
固定負債合計	11,047	9,615
負債合計	20,948	19,000
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,297	2,627
資本剰余金	2,592	3,332
利益剰余金	△3,910	△3,931
自己株式	△439	△0
株主資本合計	540	2,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△23	24
為替換算調整勘定	52	64
その他の包括利益累計額合計	28	88
新株予約権	11	15
純資産合計	580	2,131
負債純資産合計	21,529	21,132

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	19,225	22,288
売上原価	6,889	7,784
売上総利益	12,335	14,503
販売費及び一般管理費	14,032	14,191
営業利益又は営業損失(△)	△1,696	312
営業外収益		
受取利息	2	3
貸貸収入	5	1
受取配当金	3	2
持分法による投資利益	11	21
助成金収入	1,021	-
雇用調整助成金	128	0
その他	81	41
営業外収益合計	1,254	70
営業外費用		
支払利息	81	63
貸貸収入原価	5	0
支払手数料	3	66
その他	11	17
営業外費用合計	101	147
経常利益又は経常損失(△)	△544	235
特別利益		
固定資産売却益	4	8
受取立退料	56	31
固定資産受贈益	-	24
持分変動利益	-	53
関係会社株式売却益	-	58
債務保証損失引当金戻入額	-	74
その他	0	-
特別利益合計	60	250
特別損失		
店舗解約損	52	142
固定資産除却損	73	6
減損損失	207	160
貸倒引当金繰入額	58	16
特別損失合計	392	324
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△876	161
法人税等	121	182
四半期純損失(△)	△998	△21
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△998	△21

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△998	△21
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	47
為替換算調整勘定	25	14
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△2
その他の包括利益合計	30	59
四半期包括利益	△967	38
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△967	38

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年3月16日付で、藤尾政弘氏及び株式会社ダスキンの第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ127百万円増加しております。さらに第14回新株予約権の一部について、権利行使による新株の発行を行ったことにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ202百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が2,627百万円、資本準備金が2,506百万円となっております。

また、2023年2月28日開催の取締役会の決議に基づき、2023年3月16日付で自己株式703,400株の処分を行い、自己株式が439百万円減少し、その他資本剰余金が409百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、その他資本剰余金は825百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府及び自治体からの特例措置の適用を受けたものであります。

雇用調整助成金

新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を受けて、各事業所で休業期間に発生した人件費に対して申請した雇用調整助成金(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例)を営業外収益に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日 至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	3,367	—	3,367	—	3,367
神楽食堂 串家物語	5,049	—	5,049	—	5,049
麵乃庄 つるまる	638	—	638	—	638
さち福や	1,958	—	1,958	—	1,958
天麩羅 えびのや	1,296	—	1,296	—	1,296
その他	5,849	—	5,849	—	5,849
FC加盟金売上	—	113	113	—	113
FCロイヤリティ売上	—	410	410	—	410
FCイニシャル売上	—	72	72	—	72
FCランニング売上	—	469	469	—	469
顧客との契約から生じる収益	18,160	1,065	19,225	—	19,225
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	18,160	1,065	19,225	—	19,225
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	18,160	1,065	19,225	—	19,225
セグメント利益又は損失(△)	△335	649	314	△2,010	△1,696

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,010百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては207百万円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日 至2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	3,788	—	3,788	—	3,788
神楽食堂 串家物語	5,739	—	5,739	—	5,739
麺乃庄 つるまる	758	—	758	—	758
さち福や	2,172	—	2,172	—	2,172
天麩羅 えびのや	1,486	—	1,486	—	1,486
その他	7,216	—	7,216	—	7,216
F C加盟金売上	—	117	117	—	117
F Cロイヤリティ売上	—	468	468	—	468
F Cイニシャル売上	—	58	58	—	58
F Cランニング売上	—	480	480	—	480
顧客との契約から生じる収益	21,161	1,126	22,288	—	22,288
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	21,161	1,126	22,288	—	22,288
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	21,161	1,126	22,288	—	22,288
セグメント利益	1,519	726	2,245	△1,933	312

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,933百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第2四半期累計期間より売上高の表示区分を変更しております。各ブランドの売上高構成比の増減を鑑み「その他」に含まれていた当社のサブブランドであります「さち福や」「天麩羅 えびのや」を新たに表示し、「手作り居酒屋 かっぼうぎ」を「その他」へ含めました。なお、前第3四半期累計期間の売上高表示区分については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては160百万円であります。